

メッセージアウトライン

ローマ 8 : 1 ~ 9 「キリスト・イエスにある者」

[1-2] 「こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。まぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。」

「いのちの御霊の原理」とは信仰者にいのちを与え、また、罪に打ち勝つ力を与えてくださる神の御霊の支配と権威と力のこと。キリスト・イエスにある者は、このいのちの御霊の原理が働き、罪と死の原理から解放されるのである。

[3-4] 「肉によって無力になったため、律法にはできなくなっていることを、神はしてくださいました。神はご自分の御子を、罪のために、罪深い肉と同じような形でお遣わしになり、肉において罪を処罰されたのです。それは、肉に従って歩まず、御霊に従って歩む私たちの中に、律法の要求が全うされるためなのです。」

神の御子イエスは「罪深い肉と同じような形」、すなわち人となってこの世に来られたが、このお方には罪はなく、また決して罪は犯されなかった。→ヘブル4:15

この罪なきキリストが十字架にかけられることによって罪が処罰され、私たちの肉の性質も十字架にかけられ処罰されたのである。

信仰者はそれゆえ肉の性質をいたずらに嘆く生き方ではなく、それより一段と高いキリストにある、御霊に従う生き方をすることができるのである。そして、その目的は「律法の要求」つまり神の望まれる正しさが全うされるためなのである。

[5-6] 「肉に従う者は肉的なことをもっぱら考えますが、御霊に従う者は御霊に属することをひたすら考えます。肉の思いは死であり、御霊による思いは、いのちと平安です。」肉に従う者は神の喜ばれない、人間の墮落した本能に従った生き方をし、その行き着く所は死と滅びであるが、御霊に従う者は御霊に属すること、神のみこころを常に求め続け、神に喜ばれる生き方をする。それはいのちと平安をもたらす。

[7-8] 「というのは、肉の思いは神に対して反抗するものだからです。それは神の律法に服従しません。いや、服従できないのです。肉にある者は神を喜ばせることができません。」

「肉にある者」とは神に反逆する人間本来の性質の中に埋没し、その肉欲のとりことなって生きている者のこと。

[9] 「けれども、もし神の御霊があなたがたにうちに住んでおられるなら、あなたがたは肉の中にはなく、御霊の中にいるのです。キリストの御霊を持たない人は、キリストのものではありません。」

キリスト・イエスを自分の救い主と信じている者には神の御霊がうちに住んでおられ、御霊がその人のうちに働いて、神のために実を結ぶ生き方ができるように導いてくださり、救いの完成に至り、罪と肉欲にまみれた敗北の人生ではなく、勝利の人生を送ることができるのである。→ピリピ1:6、ローマ8:37